

ガソリン携行缶 取扱注意

発電機などにガソリンを携行缶から給油する機会があると思います。ガソリンは取扱いを誤ると大変危険です。危険性をよく理解し、正しい貯蔵・取扱いをお願いします。

【ガソリンの危険性】

- ・ガソリンはマイナス 40 度で気化します。
- ・静電気や少しの火花でも引火します。
- ・蒸気は溜まりやすく、目に見えません。



【取扱いについて】

- ・静電気による着火を防ぐため、金属製の容器で貯蔵しましょう。
- ・容器は密栓して、日の当たらない風通しの良い場所に保管しましょう。
- ・ガソリンを取扱っている場所では、火気や火花を発生する機械器具の使用を控えましょう。
- ・給油時は、車両や発電機などのエンジンを必ず停止させましょう。
- ・容器のキャップを外す前に圧力調整ネジを緩めて容器内の圧力を開放しましょう。
- ・給油ノズルは給油口に確実に取り付け、漏れや飛び散りが無いように給油しましょう。

ガソリンの貯蔵に適した容器の例
(金属製容器であることが必要)



ガソリンの貯蔵に適さない容器の例
(樹脂製容器は火災危険性が高い)

